

日本の風雲児、坂本龍馬を探す旅

17回 入賞者 イ ユミ

1) 旅行を始めて

最初、坂本龍馬について聞いた時は、まさか私がこの人のおかげで日本に来ることになるとは夢にも思わなかった。ただ、" ああ、日本にも変わった人がいたのね。 " と思いながら福山雅治のドラマ「龍馬伝」を見ていた。しかし、龍馬調査という目的をもって飛行機に乗った時は ' 本当に不思議な縁 ' だと思った。坂本龍馬! 日本でもっとも尊敬されている偉人、彼との出会いを目の前にして、ドキドキする気持ちを隠せない。

2) 高知龍馬空港



私が坂本龍馬について調査したいと思ったきっかけになったのもこの ' 龍馬空港 ' だった。人の名前が空港に付けられるなんて、どれほどの人だろうと感歎した。私が本当に坂本龍馬を調査しに高知に来たと実感したのもこの空港に着いてからだった。それほどこの空港のインテリアは龍馬に焦点を合わせていた。種々の銅像はもちろん、お土産や空港内のレストランまで全部、龍馬の名前が入っていた。予想はしていたが、感歎するしかなかった。12月22日、高知龍馬空港に着き、その日から本格的な龍馬探訪が始まった。

3) 食べ物とお土産



高知は龍馬に特化された都市であるだけに、高知のあらゆるものに龍馬の名が付く。特に、多くの食堂は「龍馬の休日」というキャンペーンのプラカードを掲げて、龍馬の名を付けた食べ物を販売していた。そして、ギフトショップでは龍馬キャラクターなどを利用して作られた商品がたくさんあった。さらには龍馬の顔をラテアートに描いた龍馬カップチーノも味わうことができた。

その中で、もっとも気に入ったのは ' 龍馬バーガー ' だった。西洋の代表料理のバーガーと東洋のサムライの龍馬は何の関係があって ' 龍馬バーガー ' が誕生したのか? 龍馬バーガーを食べながら店の店

員に"龍馬バーガーはなぜ龍馬バーガーですか?"と聞いてみた。そして分かった龍馬バーガーの秘密は'カツオ(鰹)'にあった。カツオは龍馬と並ぶ高知県のもう一つの自慢であり、特産物だ。それで、カツオを入れたバーガーを作って、龍馬の名を付けたのだ。魚が入っているバーガーを食べるのは初めてだったので心配していたけど意外においしかった。龍馬の名前が付いた食べ物はあれこれ全部注文して食べたが、まだたくさん残っている。それほど龍馬に関する食べ物は多かった。本当にどこまでも龍馬を愛している地域のように感嘆した。地域の人々を一つに結ぶ連帯を持っていることは素晴らしいことだと思う。

4) [龍馬伝]ロケ場所



龍馬探訪と言えば外せないのが[龍馬伝]！「龍馬伝」はNHK大河ドラマで龍馬ブームを作った張本人だったと言っても過言ではない。龍馬の生涯を描いたドラマであるだけに、高知での撮影も多かった。代表的な場所では土佐神社と桂浜などがある。土佐神社は、市内でもかなり離れたところに位置していた。周辺は民家と田畑ばかり。道を探すのにかなり時間がかかったが、到着してからは'本当に来て良かった'と思った。人里離れた所に位置した神社にもかかわらず、きれいに飾られていた。ドラマのロケで使うには他の神社に劣らない良い場所だった。

そして、計画書を書き始めた時から最も期待していた桂浜は、想像を越える絶景を提供してくれた。その景色に美しさに龍馬も気を取られて海のかなたをいつも見ていたと言う。桂浜の後ろにある丘に登れば桂浜を見ている龍馬の銅像を見ることができる。私はなぜか彼が海を見ながら何を考えているのか少し分かるような気がした。桂浜に来る人たちが必ず訪ねると言う所がもう一つある。



それは県立龍馬博物館である。博物館の前には龍馬と握手することができる銅像が建てられていた。私も記念に龍馬と握手をしながら心の中で龍馬と挨拶を交わした。博物館の中には数多くの展示資料があったが、その中でもいちばん記憶に残るのは龍馬のピストルと血痕がついた屏風だった。実際に龍馬が使ったピストルを見ることができるなんて、不思議な気分になった。龍馬は、実際、刀よりは銃のほうが好きだったという。'刀では、銃に勝つことができない。'という時代をリードする考えを持っていたという。おそらくこれも彼が尊敬されている理由の一つだと思う。

「龍馬伝」と関連された最後の場所は<龍馬伝幕府末期志士社中>だった。ここは「龍馬伝」のセットをそのまま再現しているテーマ館だ。実際に龍馬と武市半平太のメーキャップをした俳優さんたちがいて、一緒に写真も撮ることができ、「龍馬伝」をよりリアルに体験できる場所だった。最も面白かったのは、直接、龍馬の服装をして記念写真を撮ったことだ。龍馬の肖像画と同じポーズで!

5) 龍馬が生まれた上町



上町は龍馬が生まれた町で、龍馬の生家があるところだ。この町は、市内から少し歩かなければならないところにあった。クリスマスだったので、町のなかには人が少なかった。町に入った途端、華やかな装飾や竜馬一色の町が現れると思ったが、意外に普通の町とあまり変わらなかった。でも、やっぱり隅々まで龍馬の特徴をよく備えているところだった。

最初に訪れたのは龍馬の'生まれた町記念館'だった。シンプルで面白い名前の記念館だと思った。県立記念館よりは規模は小さかったが、龍馬の町だからこその、細やかな展示品が多かった。2階の和室は町の人々が集まって話を交わす空間、つまり公民館のような場所として使われているようだった。確かに規模や展示品の数は、一般の博物館よりは今少し足りなかったが、そのアットホームな雰囲気が本当に気に入った。この町でもっとも不思議だったのは龍馬郵便局の存在だった。龍馬空港の存在もびっくりだったのに、郵便局まで存在するなんて、'本当にこの人は高知県の誇りだね。'という気がした。

6) 旅行を終えて

坂本龍馬が高知県の人たちにどのように思われているのかを調べるために来たこの旅行で、私はたくさんのことを見て、感じて、学んだ。日本に行って会った友達や人々に、'なぜ、坂本龍馬はこんなにも尊敬されているのか'聞いた時、人々の答えは様々だった。'大政奉還'を一番先に思い浮かべる人もいたし、'武力'でなく'貿易'を選んだということを指摘する人もいた。

多くの人に聞いて調査して、悩んでいたが、実際に高知に到着した時、その悩みはすぐ解決された。高知県の人たちが坂本龍馬を愛することには理由がないように感じられた。高知のどこに行っても、彼の名前が入ってない場所がなかった。食べ物や他の物もそうだった。高知県の人たちは坂本龍馬について話す時、いつも笑顔だった。私が韓国で坂本龍馬を調査しに来たと言うと、皆は驚くというよりも、心の底から喜んでいた。

韓国ではここまで故郷の人に愛される偉人を見たことがない。本当にうらやましかった。高知県に坂本龍馬がいたというのは本当に外国人として、いや、日本人だとしても本当にうらやましいことだと思う。偉人がどうして尊敬されているかを調査しに行くということ自体が矛盾だったのかもしれないと思った。なぜなら、我々の誇らしい祖先を尊敬し、愛するのはあまりにも自然なことだからだ。

今回の旅は、自分にとって本当に大切な経験になりました。このようないい機会をいただいて幸運だと思います。ありがとうございました。